

平成 29 年度 日本リンパ網内系学会 診療保険委員会議事録

平成 29 年 6 月 29 日 14:30~15:25

於：京王プラザホテル（東京）

出席者：委員長 伊豆津宏二、副委員長 木下朝博、鈴宮淳司、岡本昌隆、永井宏和、福原規子、石塚賢治(新任委員)、富田直人(新任委員)、瀧澤淳(新任委員)、稲垣宏(新任委員)

欠席者：中村直哉、大橋瑠子

新任委員紹介

報告事項

1) 内科系学会社会保険連合 血液関連委員会

2016/10 に申請、2017 年度から参加

2) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望

・ 経過報告：

ベンダムスチン CLL 2016/8 適応拡大

ベンダムスチン(BR 療法) 未治療低悪性度 B 細胞リンパ腫・MCL 2016/12 適応拡大
リツキシマブ(R-FC 療法) CLL→治験 (JapicCTI-132285)

リツキシマブ(90 分点滴、1~4 mg/mL) → 「医療上の必要性が高い」・開発要請→治験
開始予定

ボルテゾミブ (III-(3)-1) WM/LPL →2016/5/18 「医療上の必要性が高い」・開発
要請

シタラビンリポゾーム(III-(2)-3) 悪性リンパ腫に伴う髄膜播種→「医療上の必要性が
高い」・開発要請

レナリドミド MCL(III-(2)-10(グループ・ネクサス・ジャパン要望) → 「医療上の必
要性が高い」・開発要請

・ 新規提出：

チオテパ 中枢神経系リンパ腫 (移植前処置薬以外の適応) 2017/4 要望書提出

3) 平成 30 年度社会保険診療報酬改訂提案書

- ・ 721201 化学療法、生物活性製剤で治療を予定するリンパ腫患者の B 型肝炎既感染スクリーニングとしての HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体の一括検査 (既収載・算定要件の拡大)
- ・ 721202 B 型肝炎既感染者の化学療法中および治療後の HBV 核酸定量の定期的モニタリング(既収載・算定要件の拡大)

いずれも日本リンパ網内系学会が主で、日本血液学会との共同提案、医療技術評価事務局のヒアリング予定。

- ・ ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(PET-CT)の算定要件の改訂（治療効果判定 PET-CT を算定要件として明記し、その前の画像検査を不要とする）
- 日本血液学会を主として、共同提案。

4) 診療保険委員会委員の COI 開示および対応

- ・ 診療保険委員会の委員は、2016 年度より学会役員等に準じて COI を学会に提出し、管理を行っている。
- ・ COI がある場合の提案や議事進行は、現時点では明文化したルールはないが、案件毎に COI について改めて確認の後、状況により議事を COI のない委員長代理に一任する等の対応を行うこととする。

審議事項

1) 今後の活動

以下の方法を通じて、今後もリンパ腫の診断・治療に関する要望・提案を行っていく。

保険の査定に関して、地域差、社保・国保の差が確認された場合、地方厚生局等への要望も検討していく。

- ・ 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議（厚生労働省）
- ・ 医療ニーズの高い医療器機等の早期導入に関する検討会(厚生労働省)
体外診断薬も対象となる
- ・ 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例の募集について」（日本医学会）
- ・ 平成 32 年度社会保険診療報酬改訂
未収載の検査→まず体外診断薬の薬事承認

今後、検討すべき具体的な案（提案のみ）

- ・ リツキシマブ皮下注
- ・ イブルチニブ 原発性マクログロブリン血症
- ・ イデラリシブ 低悪性度 B 細胞リンパ腫、CLL
- ・ IMiDs 使用時のアスピリン予防 →適応外使用
- ・ G 分染・FISH の同時算定
- ・ パラフィン組織 FISH